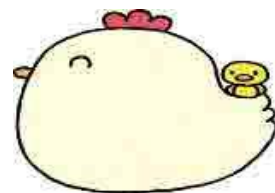




高田病後児保育所「ぬくみ」 掲示板

【8月のテーマ】

中耳炎について



高田病後児保育所スタッフより

空にはもくもくと大きな入道雲が見られるようになりました。いよいよ、夏も本番です。さて、今月のテーマは『中耳炎』です。子どもの中耳炎は、特に2歳くらいまでの乳幼児によく見られます。しかし、よくある病気だからと軽く見てしまうのは禁物。治療期間が長くなったり、繰り返したり、時には重症化することもあります。ここでは、子どもの中耳炎について、家庭でのケアや受診の目安などもお伝えします。

☆子どもは中耳炎になりやすい？

子どもに中耳炎が多いのは、顔の作りの違いによるものです。子どもは大人と比較して耳管が短く太いうえに咽頭までの傾斜が水平に近いので、細菌やウイルスが侵入しやすくなっているからです。中耳炎は鼓膜のある「中耳」という部分が炎症を起こす病気です。細菌やウイルスに感染して発症する「急性中耳炎」は子どもに多く見られます。特に乳幼児は、よく風邪を引くこともあり、中耳炎を繰り返しやすいです。

中耳炎の症状は、感染するウイルスや細菌の種類によって見られる症状が異なりますが、主に発熱、耳の痛み、耳だれ、耳鳴り、音が聞こえづらいなどが挙げられます。低年齢であると、症状をうまく伝えられないこともあるので、中耳炎のサインを知り、注意して様子を見るようにしてください。

☆このようなサインがあれば中耳炎の可能性？

- ・発熱が長期間続く、夜間に熱がよくでる
- ・しきりに耳を触ったり、手を当てたりする
- ・理由がわからないが泣き止まない、不機嫌
- ・声をかけても反応しない、テレビの音を大きくする、テレビに近づいてみる

☆家庭でのケアと受診の目安

夜中に突然、「耳が痛い」と訴えたり、泣き出したりしたら、初めての時は驚いてしまうかもしれませんが、慌てなくても大丈夫です。まずは痛みを取るケアをしましょう。

- ① 耳の周りを冷たいタオルや冷却シートで冷やす。
- ② 鼻を優しくかむ(鼻をうまくかめない月齢の子どもには吸引機を使うと効果的です。)
- ③ 子供用の解熱剤があれば飲ませてみる。
- ④ 耳だれが見られる場合は、清潔なタオルで出てきたものだけ拭き取る。

※夜間に痛みを発症する場合があります。上記のケアをしつつ、少し頭を高くして様子をみましょう。

※症状が改善をされない、痛みが我慢できない場合は、救急病院や休日診療所にご相談ください。

<小児科？耳鼻科？受診はどこへ？>

中耳炎は子どもの病気としては一般的な病気ですので、小児科でも診断・治療できることがほとんどです。信頼できる先生であれば、小児科でも耳鼻科でも良いです。早期発見・早期治療が大切です。

